そっと、

まちによりそうしごと

令和６年度　はちまるサポート活動報告書

社会福祉法人　八王子市社会福祉協議会　支えあい推進課　令和７年７月発行

はちまるサポートは、八王子市より委託を受けて八王子市社会福祉協議会が運営しています

はじめに

「はちまるサポート」は八王子市が設置、八王子市社会福祉協議会が受託運営する“地域の身近な相談窓口”で、市内１３か所に設置されています。各はちまるサポートには、専属の相談員-コミュニティソーシャルワーカー（CSW）が配属されており、地域の皆様からのご相談に対応しています。

近年、地域生活課題の複雑化・複合化が顕著となり既存の福祉サービスだけでは解決できない例が増えています。ひきこもりや８０５０問題についてご家族からの相談や、ごみをため込む状態で暮らす方について近隣住民からの相談など、多岐にわたる相談がはちまるサポートには日々寄せられています。複雑かつ多様化する相談に対し、CSW は相談内容によって適切な機関につないだり、支援を必要とする方を地域活動につなげたりするなど、根気強い伴走支援を行っています。CSW だけではなかなか解決に向けた支援が難しいことが多くありますが、他の福祉専門職と連携するだけでなく、地域の民生委員やボランティアさんのお力を借りたり、サロンや子ども食堂などの地域活動を活用しながらその方に合った居場所を紹介したりするなど、地域とのつながりを活かしながら支援しています。

本書では令和６年度の活動実績について、相談件数の実績だけでなく具体的な相談事例、地域の課題に対応するための居場所活動などを紹介しています。私たちの活動を多くの方々に知っていただくことで、地域福祉推進の一助となることを願っています。

多くの方々とのつながり・連携により、はちまるサポートは運営できています。市民の方々をはじめ、
福祉・医療・保健その他日常生活に関する様々な分野で活躍されている機関の皆さまのご理解・ご支援を、引き続きお願い申しあげます。

社会福祉法人　八王子市社会福祉協議会
はちまるサポート　CSW 一同

目　次

１．わたしたちの取り組みについて

▢はちまるサポート・CSW とは？　・・・P3

▢はちまるサポートが取り組む５つの事業　・・・P4

▢はちまるサポート設置状況　・・・P5

▢多機関協働事業　・・・P5

２．事例集

▢はちまるサポート相談事例

① CSW のアウトリーチを活かした支援　・・・P8

② 多職種での連携を活かした支援　・・・P10

③ 参加支援から、個別課題を活かした地域づくり　・・・P12

▢地域づくりの取り組み事例

① はちまるサポーター　・・・P15

② はちまるファーム　・・・P16

③ 居場所づくり　・・・P18

④ 地域共生のまちづくり推進セミナー　・・・P20

⑤ 各はちまるサポートの取り組み　・・・P21

３．資料集

▢はちまるサポート相談実績　・・・P24

▢はちまるがあるところ　・・・P29

１．わたしたちの取り組みについて

わたしたち、はちまるサポート　CSW の日ごろの取り組みについてご紹介します！

▢はちまるサポート・CSW とは？
▢はちまるサポートが取り組む５つの事業
▢はちまるサポート設置状況
▢多機関協働事業

▢はちまるサポートとは？

地域の身近な福祉の総合相談窓口です。CSW（コミュニティソーシャルワーカー）が常駐し、地域の方のご相談をお受けしています。年齢や性別、障がいの有無などご相談内容は問わず、本人や家族に寄り添いながら、各関係機関と協力して困りごとの解決を目指します。

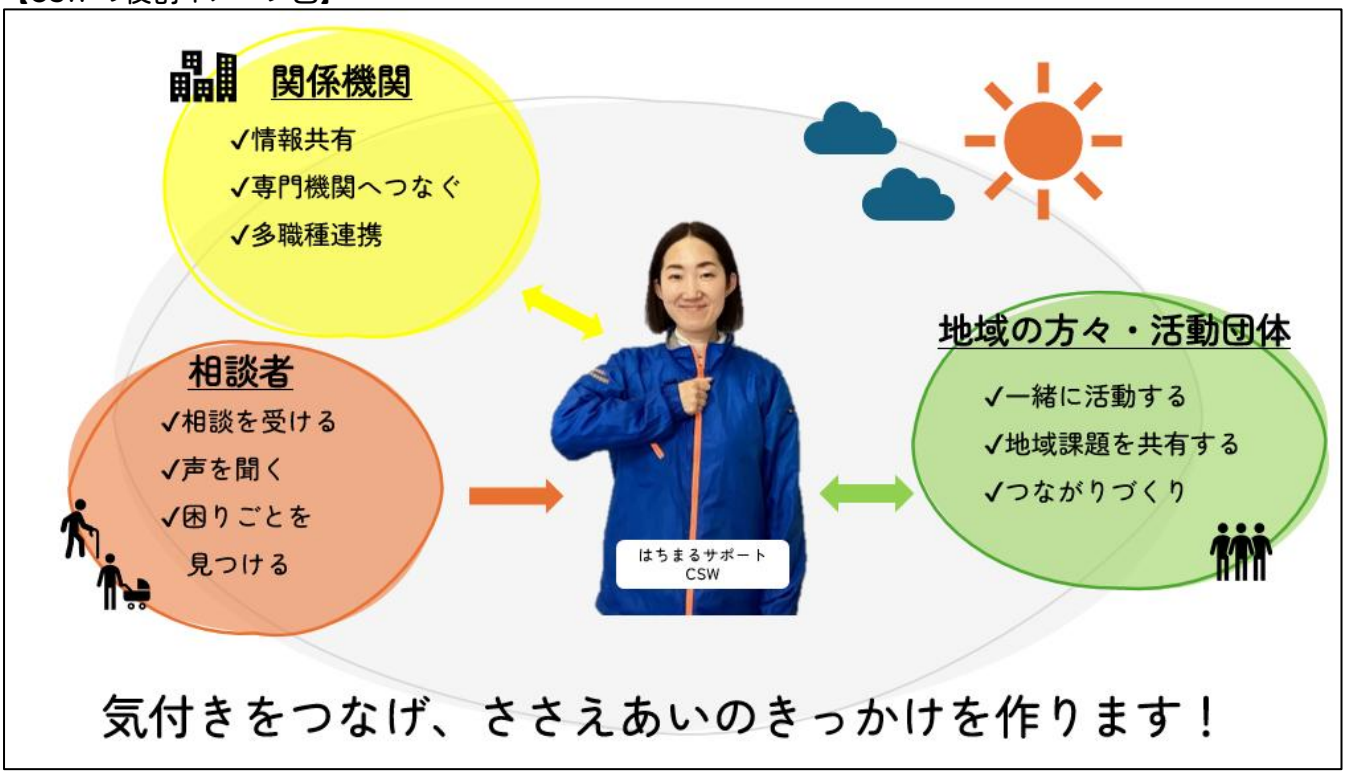
また、困りごとだけではなく地域活動についてのご相談も受け付けています。

▢CSW とは？

コミュニティソーシャルワーカーは、地域で暮らす人たちが困った時に「ちょっと相談してみよう」と思える身近な相談役です。たとえば・・・「最近、全然外に出ていないし人と話していないな」「家族のことで悩んでいる」「近所のあの人心配だな」などの声にそっと寄り添い、必要な支援につなげたり、地域の人や各関係機関の方々と協力して問題解決を目指します。

また、困りごとを“個人の問題”として終わらせるのではなく、≪地域全体で支えあうにはどうしたらいいか？≫を考え、つながりや居場所づくりにも取り組みます。

【CSW の役割イメージ図】



▢聞いてみた！あなたにとっての“CSW”とは？

はちまるサポートとは、主任児童委員の時にお付き合いが始まったのですが、地域のみなさんのためになりたいという意欲があふれ、「少しでも協力したい」という思いになりました。

地域の相談窓口としての活動はもちろん、子どものための居場所、防災など地域に関する勉強会、さらに地域活動団体同士の交流の機会など、大変素晴らしく、今後も継続して取り組んでいただけることを期待しています。

第６地区民生委員・地域活動者　谷口さん

▢はちまるサポートが取り組む５つの事業（重層的支援体制整備事業）

重層的支援体制整備事業は、地域のつながりや分野を越えたつながりで、一人ひとりの日常生活を社会全体で支えていく「包括的な支援体制」を構築するために、令和３年４月に国が創出した事業です。

はちまるサポートでは、重層的支援体制整備事業に位置付けられた５つの事業を実施しながら、地域共生社会の実現に向けて活動しています。

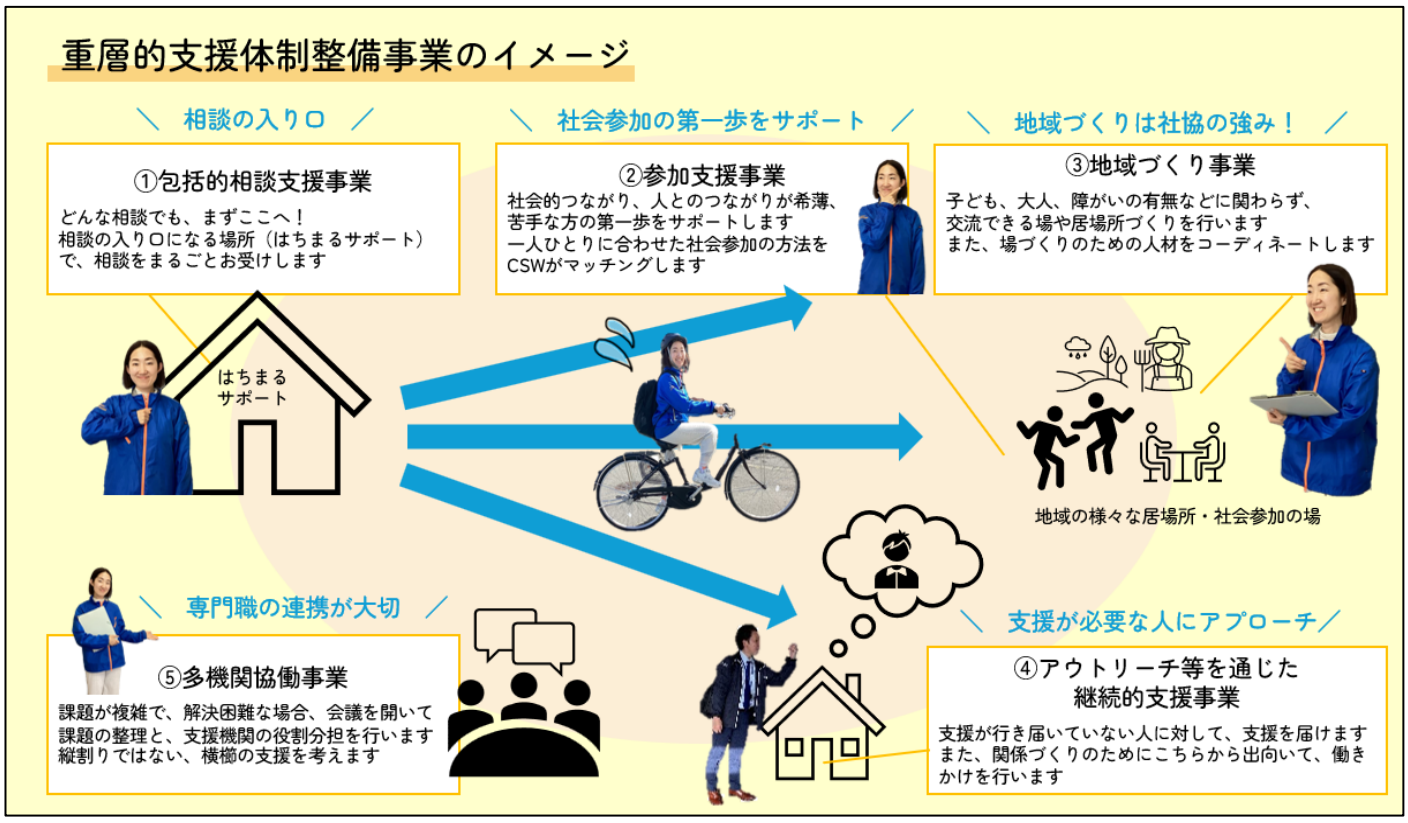
▢地域共生社会とは？

厚生労働省によると・・・制度や分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指すもの。

つまり・・・　「困ったときはおたがいさま」という気持ちを大切にして、みんなが安心して暮らせるまちを、みんなでつくっていくこと。無理のない範囲で、それぞれができることをやりながら、ゆるやかにつながり、ひとりひとりが安心して暮らせる地域を目指しています。

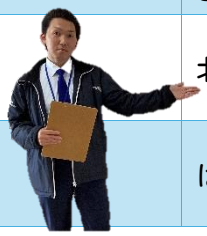
【重層的支援体制整備事業で取り組む５つの事業】

① 包括的相談支援事業：相談の入り口になる場所（はちまるサポート）です
② 参加支援事業：地域とゆるやかにつながれるよう、社会参加をサポートします
③ 地域づくり事業：居場所づくりや、地域の繋がりづくりの支援をします
④ アウトリーチ等を通じた継続的支援事業：自分から相談できない人のもとへ、CSW から働きかけます
⑤ 多機関協働事業：福祉、医療など多職種で分野を越えて課題や支援方法を考えます



▢はちまるサポート設置状況　※はちまるサポートは、令和３年 10 月まで“地域福祉推進拠点”の名称で運営

設置年度	
平成 26 年度	市内で初めて地域福祉推進拠点開設 北部圏域に地域福祉推進拠点石川開設
平成 29 年度	配置する CSW を専従化 西部圏域に地域福祉推進拠点川口、西南部圏域に 地域福祉推進拠点浅川、中央圏域に地域福祉推進拠点大和田開設
平成 30 年度	市内全６圏域に地域福祉推進拠点を設置　CSW が全圏域で対応可能になる 東南部圏域に地域福祉推進拠点由井、東部圏域に地域福祉推進拠点由木開設
平成 31 年度（令和元年度）	東部圏域に地域福祉推進拠点由木東開設 中央圏域に地域福祉推進拠点台町開設
令和 2 年度	西部圏域に地域福祉推進拠点恩方開設
令和 3 年度	『重層的支援体制整備事業』を八王子市より受託 “地域福祉推進拠点”から“はちまるサポート”に名称変更 西南部圏域にはちまるサポート長房開設
令和 4 年度	西部圏域にはちまるサポート元八王子開設 西南部圏域にはちまるサポート館開設
令和 5 年度	北部圏域に１３か所目となるはちまるサポート加住開設
令和 6 年度	はちまるサポート石川、川口が「基幹型はちまるサポート」へ



▢多機関協働事業

主に以下２つの役割を果たしながら、縦割りではなく、様々な分野で協力し、強みを活かして課題解決していくことを目指します。

① 包括的な支援体制の構築　困った時に、どこに相談しても必要な支援につながる仕組みづくり

重層的支援体制整備事業を推進するために必要な関係者との連携強化を図るため、多様な相談支援機関や事業所、団体等との包括的な支援体制を構築します。

（関係機関との役割や支援内容等の相互理解の促進及び一体的な支援の提供に向けた仕組みの構築）

② 支援会議の開催　困っている人をみんなで支えるための話し合いの場づくり

単独の支援機関では対応が難しい複雑化・複合化した地域生活課題の調整役を担い、多機関と課題解決に向けた目標の共有や役割分担等の支援方針を定め、共有する。

（重層的支援体制整備事業における支援会議（社会福祉法第 106 条の６）の開催・運用、支援プランの作成・多機関との共有）

２．事例集

個別の相談への対応、地域づくりの活動について紹介します

１．はちまるサポート個別相談事例

２．地域づくりの取り組み事例

はちまるサポート個別相談事例

事例1.

CSWのアウトリーチを活かした支援

「住み慣れた地域で　安心して暮らしていくために

～はちまるサポートとのつながりから　医療・福祉の連携へ～」

事例2.

多職種での連携を活かした支援

「複合的な課題を抱えた世帯の自立に向けた関係機関の連携支援」

事例3.

参加支援から、個別課題を活かした地域づくり

「はちまるから居場所、そして就労へ」

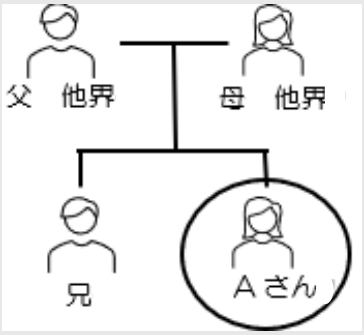
事例1.　CSW のアウトリーチを活かした支援

住み慣れた地域で安心して暮らしていくために

～はちまるサポートとのつながりから　医療･福祉の連携へ～

■ 初期対応時の世帯の状況

A さん:一戸建て（持ち家）で一人暮らし。
もともと4人家族であったが、兄は別世帯、両親は他界している。
そこに知人2名が同居し、居候状態であった。



■ 関わりのきっかけ

約 5 年前、Aさんが一人ではちまるサポートに来所される。
当初の主な訴えは、部屋の片付け･ゴミの仕分けをしたいとのことだった。詳しくお話を伺うと、「（同居している）知人に出て行って欲しい」など細かな要望が表出する。

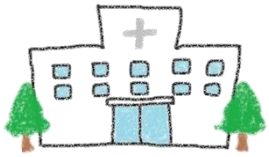
■ Aさんと関係を築くためのアウトリーチによる支援

初回相談以降、A さんとの関係づくりに重きを置いた定期訪問を実施した。何度もお会いするうちに、これまで辛い経験があったことや、「心理的トラウマへの向き合い方などについて話を聞いてほしい」という希望が聞かれるようになった。また、これからの生活についても漠然とした不安を抱いていた様子であった。
以降、書類作成の手伝い、お部屋の片づけや掃除、受診同行をしてほしいなど、困りごとがあるとその都度はちまるサポートへ連絡してくれるようになった。その度に一緒に考えて解決していき、Aさんとの関係性を構築していった。
定期訪問により、困りごとだけでなく、これまでの A さんの生活についてなど世間話ができる関係になり、Aさんが得意なイラストを広報誌へ掲載するなど、強みを生かした働きかけを行った。

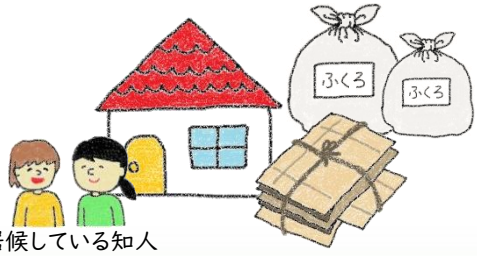
■ 他機関や地域へつなぐ支援

関係構築をした上で、この先 A さんが地域で安心して生活を送る為に他機関へ繋ぎ、連携が取れたサポートができるよう、情報共有の機会を設けた。また、地域との繋がりも大切だと考え、地域の居場所を紹介し、安心して参加できるように支援を行った。

■ CSWが関わる前の状況



病院と自宅を往復する生活



居候している知人

Aさん

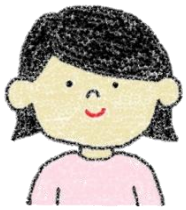
知人に出て行って欲しい、部屋を片付けたい…
孤独感・漠然とした不安感を一人で抱え込んでいた

■ 支援経過

支援開始	1年	2年	3年	現在
・関係構築のための定期訪問 ・部屋の片付け、ゴミの仕分け、清掃	・書類作成サポート ・福祉サービス導入	・保健所と連携 ・居場所への参加見守り ・広報誌へ自身のイラスト掲載	・通院同行 ・医療福祉との連携 ・訪問看護を導入	

■ CSWが関わった後の状況

- ✓ 相談先が増えた
- ✓ 通院環境が整った
- ✓ 地域に繋がった
- ✓ **SOS を発信できるようになった！**



Aさん

自宅から通いやすい病院に変更

地域の居場所

■ CSWの振り返り

これまで誰かに相談することもなく、一人で孤独感や不安を抱え込んでいたAさん。時間をかけて関係性を構築していくことで、必要な時にSOSを発信できるようになった。

医療と福祉の連携が取れたことで、Aさんの相談先を増やすことも出来た。

■ 今後の展望と課題

Aさんの趣味・特技でもある工作を活かせる居場所への参加を増やしたり、就労移行支援に繋げることで社会的繋がりが生まれ、Aさんが孤独感を感じることは少なくなると考えられる。

また、Aさんの相談先が増え、関係機関同士が連携することで住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して生活していくことができるのではないか。

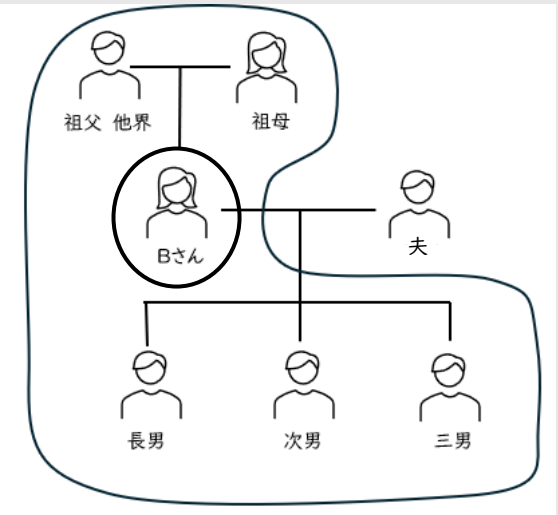
事例2.　多職種での連携を活かした支援

複合的な課題を抱えた世帯の、自立に向けた関係機関の連携支援

■ 初期対応時の世帯の状況

3 世代で同居。

祖母：近所や娘との関係が希薄で、家庭内でのトラブルがあった。
B さん：40 代女性。双極性障害あり。保健所が介入していた。
　　家族関係が希薄でトラブルがあった。主たる支援対象者。
長男：一般就労中。
次男：知的障害あり。
　　障害福祉事業所の支援で就職したが、仕事に行けていない。
三男：知的障害あり。
　　障害福祉事業所の支援で就職したが、仕事に行けていない。



■ 関わりのきっかけ

高齢者あんしん相談センターから 7040 世帯の件で、40代の娘（B さん）の話を聞いて欲しいと依頼があった。相談日の約束をしたが、本人の都合で日程が合わなかった。3 か月後、高齢者あんしん相談センターに問い合わせすると、B さんご本人が保健所に相談しているとのことだった。

初回相談から 9 か月後、家庭内のトラブルが警察沙汰になり、高齢者あんしん相談センター職員と本人がはちまるサポートに来所し、お話を聞くことが出来た。

■ CSW が関わる前の状況

B さん一人で家族の困りごとを背負い、家庭内でのトラブルや
警察沙汰になることがあり、精神的な状況の悪化が見られた

■ 支援経過

Ｂさん

相談受付

・本人が来所、話を聞く
・**関係者会議**を開催
・本人を交えた話し合い

9か月～1年1か月

・本人の気持ちの整理
・今後の生活のアドバイス
・グループホームの情報提供

1年4か月

1年7か月

・グループホームへ入所

現在

その他の家族

・家族全員と話ができる
・世帯状況の把握、課題整理
・子どもたちの受診に同行
→障害年金の申請を援助

・子どもたちがはちまるファームやこども食堂へ参加
・世帯の各種手続きの支援（ハローワーク等）
・関係機関との連携（随時、情報共有）

■ 関係者会議の開催で課題を整理・関係機関とＢさん世帯の繋ぎ

CSW

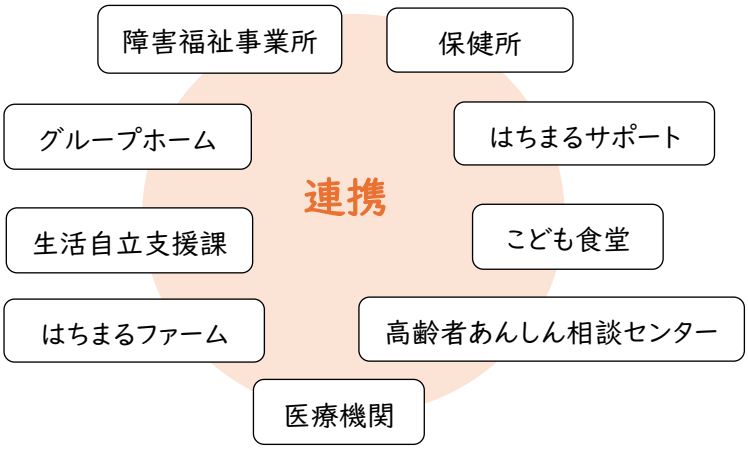
連携の場を設定して、
課題を整理しよう！

・Ｂさんと各相談支援機関の顔合せ
・各機関の役割を伝え、各機関が協力してＢさん世帯への支援を行うことの了承を得た

【会議の結果：相談先の整理】

・母親との関係→高齢者あんしん相談センター
・ご自身の不安→保健所
・障害のある子どものこと→障害福祉事業所
・近隣との関係、金銭的な困りごと→はちまるサポート

■ CSWが関わった後の世帯の状況



Ｂさん

✓ 家族内のことを整理できた
✓ グループホーム入所

その他の家族

✓ 収入源の確保（年金等）
✓ 生活の助言

■ CSWの振り返り

支援機関が個々で支援していたことにより、家族内の困りごとの全体像がよく見えず、トラブルが発生していたように感じた。一つ一つの課題を世帯全員と整理していくことで、それぞれの意識が変わり前向きに捉えることが出来るようになった。

それぞれの世帯員に支援機関が入り、不足する支援に関してCSWが繋ぐことで、安心して地域で暮らせる状況が出来た。

■ 今後の展望と課題

はちまるサポートと関わったことにより、困った時に相談できる場ができたことは、本人達の安心感に繋がっている。

世帯員の持つ能力を活かしつつ、関わりを持てる資源に繋げることで、今後も緩やかに見守りながら、それぞれが社会の中で自立した生活を送れる様に声掛けを継続していく。

事例3.　参加支援から、個別課題を活かした地域づくり

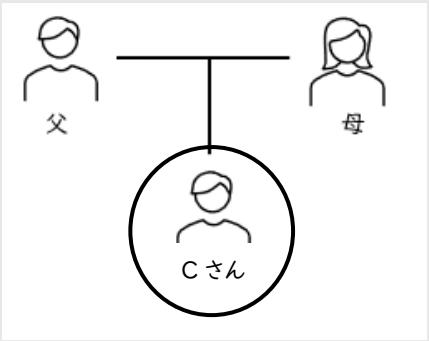
はちまるから居場所、そして就労へ

■ 初期対応時の世帯の状況

C さん：50 代男性。アルコール依存症あり。
　　他者との交流なく、自宅で過ごすことが多い。

父親：買い物や内科受診以外は自宅で過ごしている。

母親：パート就労している。夫と息子のことでストレスを抱えている。



■ 関わりのきっかけ

保健所職員が C さん世帯と面談した際に、母親から C さんの今後のことについて不安な気持ちを吐露される。ご本人も自分自身の今後について相談希望があった。保健師よりはちまるサポートへ C さんの今後について相談に入ってほしいと連絡あり、C さんのご自宅にて面談を行うこととなった。

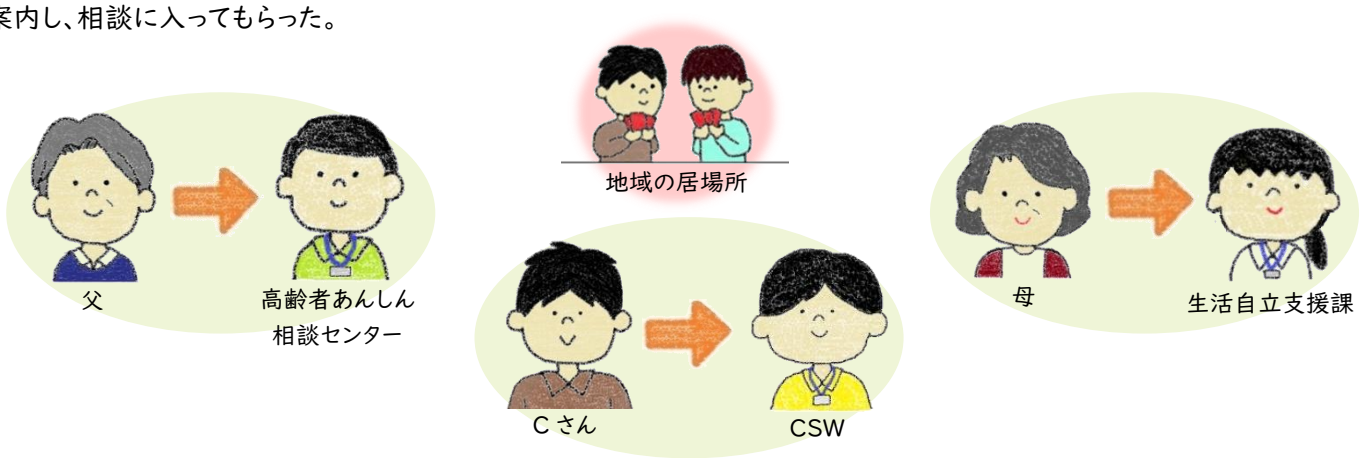
■ C さんとの関係づくりを通じて、個人のニーズから地域づくりを行う

C さんとの初回面談では、困り感もなく、意志表示もなかったが、繰り返し個別面談することで趣味があることや、他者との交流を望んでいることを打ち明けてくださった。

7 ヵ月経ち、はちまるサポートの事務所へ C さんが歩いて直接相談に来ることができるようになった。C さんが通える居場所を探すも、定期的に通える場所が見つからなかった。そこで、はちまるサポーター協力のもと、事務所の近くで新たな居場所をはちまるサポートで運営することとした。

スタッフのはちまるサポーターや地域の方々は、初参加の C さんのことを詮索したりせず、自然に会話しながらゲームを楽しむ状況を作ってくれた。C さんはこの居場所が気に入った様子で、毎回参加してくれるようになった。

父親へは高齢者あんしん相談センターを紹介し、母親は経済的な部分に関しても不安があった為、生活自立支援課を案内し、相談に入ってもらった。



■ CSW が関わる前の状況

・昼夜逆転の生活
・家庭内での会話はわずか
・地域の方と疎遠
・嗜好品を買いに外出するのみ

■ 支援経過

相談受付	⇒	６か月	⇒	９か月	⇒	１８か月
・保健師同席で Ｃさんと面談		・月に数回訪問を続ける ・関係者会議を行う		・居場所の準備を進める ・本人が居場所に参加する		・地域のゴミ拾いに参加（参加者と交流する様子みられる） ・Ｃさんを生活自立支援課へ繋ぐ

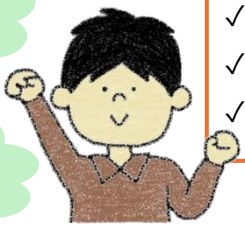
■ CSWが関わった後の状況

ゲームや洋服の購入

地域の居場所へ参加

人と会うから身なりを整えたい

居場所へ来ている人とゲームをしたい


Ｃさん

✓ 地域との繋がりができた
✓ 昼夜逆転生活が解消
✓ 活動意欲が向上

■ CSWの振り返り

本人が他者との交流を望んでおり、その機会を得られる居場所が出来たことで、Ｃさん自身にも変化がみられた。外出する際に身だしなみを整える様になり、自分の困りごとだけでなく、家族の困りごとに関してもはちまるサポートへ伝えてくれるようになった。自分以外の物事に関して視野が広がったように感じた。

また、誰でも気軽に参加出来る居場所の重要性を実感したと同時に、活動を支えてくれる地域の人材の発掘、交流の必要性を学ぶことが出来たことは、CSWとしても貴重な体験となった。

■ 今後の展望と課題

Ｃさんは、他者との交流を通じ、以前より活動的になってきている。高齢の両親に頼った生活のままではいけないという自覚も芽生え、生活自立支援課を通じて、就労移行支援事業所利用への準備をしている。

父親は、高齢者あんしん相談センターを紹介後、歩行に不安があった為、歩行器を購入し、外出の機会が増え、以前仲が良かった近所の方々との交流がみられるようになった。母も家族２人の変化から安堵の表情が見られている。

しかし、Ｃさんは他者とのコミュニケーションの不安、両親が高齢なこともあり、親亡き後の自立した生活が課題として挙げられる。今後もＣさんに伴走しながら様々な課題へ CSW としてサポートしていきたい。

地域づくりの取り組み事例

1. はちまるサポーター

2. はちまるファーム

3. 居場所づくり

4. 地域共生のまちづくり推進セミナー

5. 各はちまるサポートの取り組み

① 「大地震が起きた時、地域で必要な対応力を考える

～南大沢五丁目防災協議会の取組事例から～」（はちまるサポート由木東）

② 「高尾地域のつながりをもつ会（通称：浅川ぬか漬けの会）」（はちまるサポート浅川）

▢はちまるサポーター

はちまるサポーターは、日常生活の中で、地域の問題や課題、ちょっと気になることなどを『はちまるサポート』につないでいただく“つなぎ手”となるボランティアです。地域のことに関心を持ち、“近所のあの人、最近心配” “地域に居場所ができたよ！”など、そこで暮らす人ならではの情報を届けてくださることが主な活動内容です。

令和５年度より募集を開始し、令和６年度末までに１３か所全てのはちまるサポートエリアにて説明会を実施。多くの方に登録いただきました。

ありがとうエピソード　～サポーターがつないだ支援のバトン～

『できるだけ早く行ってあげてくれ。隣の人が困っているみたいだ』はちまるサポートに来所したサポーター。話を聞いてその方と一緒に、隣のお宅を訪ねると…顔色が悪く、元気もない男性。

「お金がなくて病院にも行けていない」と、か細い声で伝えてくれました。

はちまるサポートで支援を開始してからは、地域の方が食べ物を届けたり、はちまるが休みの日には様子を見に行ってくれています。サポーターの声があって支援の輪が広がりました！

自ら SOS を発信しにくい方々の代わりに、声を届けてくれる、CSW にとって心強い存在です。

活動データ

サポーター登録者数：１４０名（令和７年３月３１日時点）

※川口、大和田、長房は令和５年度中に実施（２２名登録）

はちまるサポート	開催日時	参加者（登録者）
由木東	７月　３日	３３名（２１名）
浅川	８月　９日	１８名（　７名）
恩方	９月　８日	２２名（２２名）
台町	９月１２日	１２名（１１名）
元八王子	９月１２日	１８名（１５名）
館	９月１３日	２０名（１４名）
加住	９月１３日	１３名（　３名）
石川	９月１９日	１６名（　９名）
由井	９月２７日	６名（　１名）
由木	１０月　８日	１７名（１５名）

心配な家、気になる方がいたら、はちまるサポートにお知らせください！

『ボランティアは初めてだけど、これならできそう！』という声が多かったです♪

▢はちまるファーム

はちまるファームとは？

CSW が日々相談を受ける方の多くは、ご家族との関係性や、職場、学校などでの人間関係に悩み、孤立孤独状態に陥っています。はちまるファームは、そのような悩みを抱えた方々が、少しでもほっとできたり、「外に出てみようかな」と思えるような場所を作りたいという思いから、令和４年度より地域の方と準備を進めてきました。令和６年度には多くの方にご参加いただき、様々な交流が生まれる場所となりました。

現在、２か所で活動しています。（令和４年度より小比企、令和６年度より南陽台）

小比企

令和６年度は、前年度から引き続き継続して参加されている方だけでなく、関係機関や支援団体からのご紹介で参加される方なども増え、様々な背景や個性を持った方々が集える場となりました。

また、畑の持ち主の方、ボランティアとして参加してくださる方のお力添えもあり、当事者やその家族、支援者など、参加者同士の交流をする場として定着してきたように感じています。

南陽台

【令和６年度は２か所目となる南陽台が始動！】

令和６年４月から、模索しながらの１年でした。

９月からは、地域のボランティアの方々にもご協力いただき、安定して活動できる土壌が少しずつ整ってきました。今後も気楽に参加できる場所として、参加しやすさ・居心地の良さを意識しながら、みんなで良い雰囲気の中、活動していきたいです。

＼　一緒に作業すれば、みんなゆるやかな仲間です　／

活動データ

●参加人数：のべ３８０名（小比企２８１名・南陽台９９名）

●活動内容：土づくり、苗植え・種まき、収穫

●活動場所：小比企町・南陽台

たくさんのご参加、
ありがとうございました！

「土いじりは癒されるなぁ」
「夢中で虫を追いかけていたなぁ」
「久しぶりにだれかと食べたなぁ」
今までにない経験、久しぶりの経験がいっぱいのはちまるファームです。みんなで育てた野菜の成長を、みんなで喜ぶ、そして食べることの幸せを感じます。だれかと一緒に作業すること、ひとりの空間を大切にすること、いろんな価値観を認めあえる場所になりました。

＼　畑作業だけじゃない！　ファームの活動は無限大！！　／

はちまるファームでは主に農作業を行いますが、ファームを運営するために必要なものをみんなで作ったり、ファームで採れたものを使ってみんなで調理をしたり、農作業以外の多種多様な活動が行えることも魅力です。
実際に行った活動を紹介します。

●１１/２８　芋煮会　小比企

６０名参加

天気に恵まれ、晴天の元で芋煮会を開催しました。
Ｒ６年度は新しい試みで畑の前の川沿いでクリーン活動、ラジオ体操を行いました。子どもからシニア世代、様々な支援機関・団体からの参加もあり、にぎやかに交流しながら一年間の活動を振り返りました。
始めは参加に緊張していた方も、気づけばとなりの方と言葉を交わし、笑顔が絶えない時間となりました。自分で作った野菜は美味しいですね！

●２/６　プレート作り　小比企

１５名参加

畑で使用する作物のプレート作りも毎年恒例となりました。
それぞれの「得意」や、「やってみたい！」を活かし、素敵なプレートができました。

●２/２７　からだづくり with メガロス八王子　小比企

８名参加

メガロス八王子さんのご協力を得て、春先に再開する畑作業に向けてからだづくり体操を行いました。
楽しみながら、からだづくりをする機会を得る事が出来ました。

●２/１　はちまるファーム南陽台の収穫物を活用した 多世代交流のお菓子作り教室　南陽台

２０名参加

メニュー：「さつまいもドーナツ(チーズ入り)」・さつまいも他種と里芋の試食

４グループにわかれ、講師の説明に沿って、畑で獲れたさつまいもを使ってみんなで調理しました！小学生からシニア世代まで、様々な世代の参加者が一緒に作業をすることで、より一層交流が深まりました。

＼　ご参加いただいた方の声をあつめました！　／

最初は、不登校の我が子が外に出るきっかけになればと思い参加しました。何度も参加するにつれて、親である私自身が作物の成長をみるのを楽しく感じるようになったり、農作業で気持ちがすっきりするようになりました。
いつも食べているキャベツがどのように大きくなるのかを知ったり、そら豆はこんな寒い時期から植えるのか、など新しい発見がたくさんあり、楽しいです。

祖父母が農業をやっており、小さな頃を思い出して、懐かしい気持ちになりながら活動しています。
八王子市に引っ越して、地域の方との繋がりが無い中、ファームの活動を通して地域の方と接する良い機会になっています。ファームで知り合った方と地域の食堂やスーパーでも会うことがあり、繋がりができて嬉しいです！

□居場所づくり

令和６年度より、各はちまるサポートで居場所づくりを進めています。

なかなか外に出られない、だれかと話したり、ゆっくり過ごせる場所があったらいいな・・・。そんな気持ちを抱えている方が安心して来ていただける場所を様々な形で開いています。

各居場所のコンセプトや、参加者もいろいろ。その地域の特徴に合わせてできることを工夫しています。

まるまるすぺーす川口

みなさんが安心して参加し、繋がれる場所として開催しています。人と交流する機会としてだけでなく、地域の活動者同士の情報交換の場としても活用いただいています。

マインドフルネス講座、自律神経測定会、ギター演奏会、ヨガ教室など・・・地域の方や企業の力も生かした多様な内容を展開しました。

〇POINT〇

地域の方が何を必要としているか模索しながら開催しました。まずは皆さんが気軽に集まり、話が出来る場所が必要と感じ、令和７年４月からは、カフェをオープンすることにしました。

活動データ

開催回数：月１回程度

参加人数：のべ６０名

CSW のコメント

フェルトで物作りをする方や、編み物の本を開いて“これ作れるかな？”と初対面同士で趣味の話をしている方、お立ち寄りいただいた企業の方から活動を始めたい方へアドバイスをしてもらったり、様々な繋がりがありました。皆さんふらっと遊びに来てください。

まるまるすぺーす元八王子

カードゲーム大会から始まった「まるまるすぺーす元八王子」。はちまるにご相談いただいている方をはじめとして、民生委員やはちまるサポーターにも参加いただき、みんなで運営しています。レモングラスポプリ作りや調理実習など、参加されるみなさんの“やってみたい”を実現する場となっています。

〇POINT〇

小学生から９０代まで幅広い年代の方が参加されています！初回から関わってくださっている“はちまるサポーター”の皆さんの支えもあり、居心地の良い場所として育まれています。

活動データ

開催回数：２か月に１回

参加人数：のべ７３名

CSW のコメント

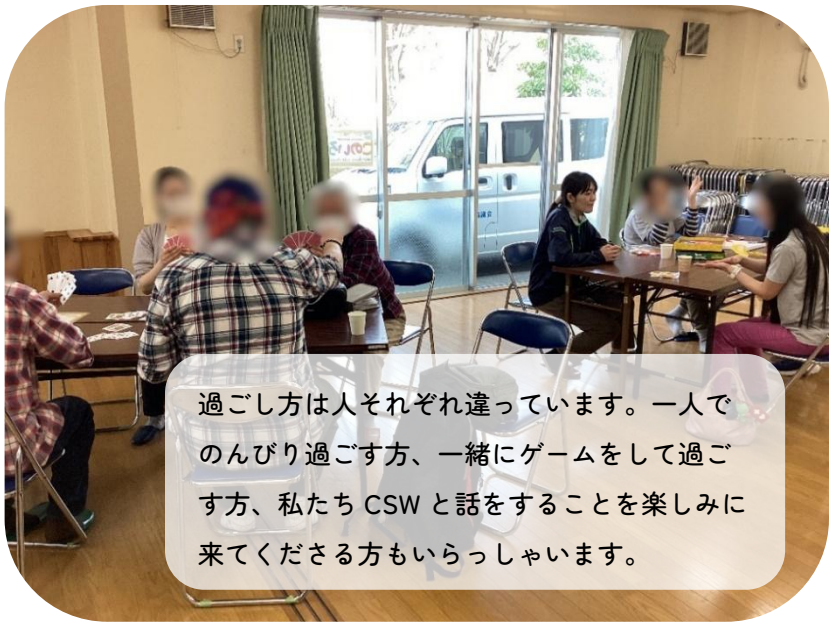
初めての場所や大勢の人が苦手な方でも、ゲームをきっかけに自然と会話が生まれ、新たなつながりが生まれる場になっています。参加者の声から新しい取り組みも増えており、参加する人も支える人も楽しめる、みんなで作るあたたかい居場所を目指しています！

団地の居場所「このいろ」

都営中野団地の集会所の中でゆったりと運営している居場所です。お茶やお菓子を片手に、みんなでジェンガやトランプなどのゲームをしてのんびりと過ごしています。自分の好きなもの（音楽やゲーム）を持ってきて、見せてくださる方もいます。

〇POINT〇

民生委員、はちまるサポーターも参加しています！会場も、地域課題や取り組みに共感してくださった自治会のご厚意で借りています。地域の協力なしでは運営できない居場所です。



過ごし方は人それぞれ違っています。一人でのんびり過ごす方、一緒にゲームをして過ごす方、私たちCSWと話をすることを楽しみに来てくださる方もいらっしゃいます。

３月からは、「やさしいにほんご」のコーナーもスタートしました！

外国籍で、日本語に不安がある方向けにボランティアの先生が楽しみながら、日本語を教えてくれます♪

活動データ

開催回数：月１回（毎月第４水曜日）

参加人数：のべ６０名

CSWのコメント

最初は１～２名の参加でしたが、徐々に参加してくださる方が増え、今では参加者同士のコミュニケーションも生まれています。一緒にゲームをしたり、情報交換したり、楽しい時間を過ごしていただけたらと思っています。

私たちもみなさんに会うのが毎月の楽しみです。

今後は参加者のみなさんのアイディアも取り入れた内容も考えていきたいです！

“居場所”ってなんだろう？

いつもよりちょっと綺麗なシャツを着て、帰りに「楽しかった」「緊張したけどまた来るよ」帰り際、そんな言葉を言っていただけると、CSWの私たちも嬉しくなります。

家、学校、職場・・・もしかしたら大半の人にとっては当たり前の居場所かもしれませんが、そうではない人もいます。それでもCSWに誘われて、重い腰を上げて勇気を出して行った地域の場所が、そのひとの居場所になるのだと実感できる場面があります。

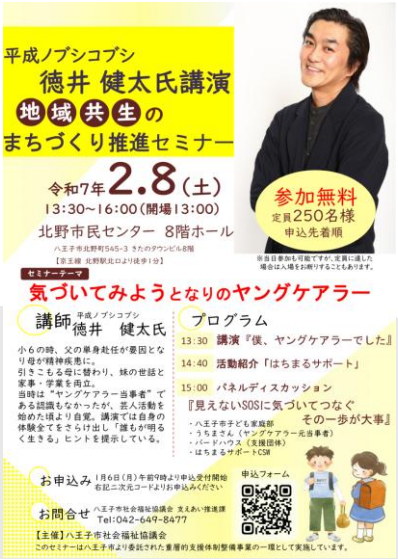
そんな場所が地域の輪の中でひとつでも増えたらいいなと思っています。

▢地域共生のまちづくり推進セミナー

○ 開催趣旨

昨今、社会問題となっている８０５０問題、不登校・ひきこもり、ヤングケアラーなどは、本人や家族が問題を抱え込み、周囲と距離を置いてしまうことが、問題の長期化の一因となっています。

本セミナーでは、「ヤングケアラー」に焦点を当て、元当事者や関係者からお話を伺い、私たちひとりひとりができることは何か？ということを問いながら、誰もが安心して暮らせる地域共生社会の実現について、考えるきっかけとなることを目的に実施しました。



○ 開催日時：２月８日（土）　１３：３０～１６：００

○ 開催場所：北野市民センター８階ホール

○ 参加人数：２０６名

○ プログラム

＜第１部＞

・【 講　演 】「僕、ヤングケアラーでした」

講師：平成ノブシコブシ　徳井　健太氏

・【活動紹介】「はちまるサポートについて」

＜第２部＞

・【パネルディスカッション】「見えない SOS に気づいてつなぐ　その一歩が大事」

登壇者：元当事者女性、ACT 八王子たすけあいワーカーズバードハウス、
八王子市子ども家庭部こども家庭センター館長、
はちまるサポート CSW（コミュニティソーシャルワーカー）

＼　ご来場、ありがとうございました！　／

○ 参加者の声（アンケートより一部抜粋）

・今の状況がどういう事なのか、気付かせて助けてあげられる大人の存在って必要なのだと思いました。

・当事者と支援者、各々の経験・実践からお話いただき、今後の課題が見えてきたように思いました。

○ セミナーを終えて・・・

セミナー当日、２００名を超える多くの方にご参加いただきました。過去２回のセミナーの参加者の多くは福祉関係者でしたが、今回は７割以上が福祉関係者ではない方でした。様々な方々に足を運んでいただき、はちまるサポートやヤングケアラーについてお伝え出来た意義は大きいと感じています。今回のヤングケアラーというテーマから、地域の方々の気付きや“おせっかい”が、声なき声を拾うきっかけとなり、だれもが安心して暮らせる地域づくりにつながることを確認できたのではないかと思います。

▢各はちまるサポートの取り組み①　由木東

テーマ：「大地震が起きた時、地域で必要な対応力を考える～南大沢五丁目防災協議会の取組事例から～」

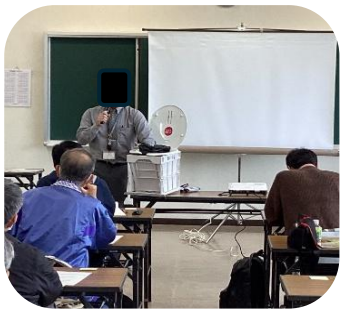
開催までの経緯

鹿島・松が谷地域は、団地群が大半を占め、大地震が発生した際、団地特有の対応に迫られることが予想されます。

そこで、市内で地域防災活動に取り組んでいる住民団体の方、防災課の職員の方をお招きし、大地震が発生した際の具体的対応について、地域に即した情報を地域住民に提供する機会を設けました。

本セミナーを契機に、地域住民自身で「自分や地域を守るためにどうしたらよいか？」を考えて頂き、住民間での意見交換、交流促進、防災意識醸成の「はたらきかけ」をはちまるサポートから行いたいと思い、開催しました。

有事の際に役立つ、備蓄品などを展示しました！



▶当日の流れ

1．南大沢五丁目防災協議会代表 講演
2．携帯トイレの使用方法 動画視聴・説明
3．八王子市防災課からのお話
4．質疑応答
5．はちまるサポートよりご案内

参加者の声

「できるだけ在宅避難できるように備えたい」「日頃から日常備蓄をしておく、家具の固定をしていきたい」とのコメントを頂きました。また、「巨大地震が発生した際、地域で必要な対応力は何か？」の質問に対しては、「隣近所と日頃から顔の見える関係を作ることが大事」との感想を頂きました。

大地震が発生した場合は、特に、日ごろから地域で協力しあえる関係作りが大切と考えています。はちまるサポートとして、防災イベントだけでなく、地域の繋がりづくりの仕掛けを今後も実施していきたいです。

開催データ

▶実施日時：令和６年１１月１６日　（土）　１０：００～１２：００
▶実施場所：由木東市民センター１階　会議室１・２
▶参加人数：１５名

□各はちまるサポートの取り組み② 浅川

テーマ：「高尾地域のつながりをもつ会（通称：浅川ぬか漬けの会）」

開催までの経緯

生活支援コーディネーターと浅川地区社協とCSWとが月２回開催している情報共有会（小梅の会）にて発足しました。

３団体が情報として持っている地域活動団体に声をかけ参加してもらっています。高尾地域で活動している団体同士の交流を目的とした会です。

同じ“高尾地域”を拠点として活動するなかでお互いの活動について知ってもらうことに重点を置いています。課題や工夫していること、地域特性からみられるニーズなどを共有し、お互いの活動のいいところ取りができ、助け合い育っていけるような関係づくりを目指しています。

第１回・第２回と、地域で思いを持って活動しているみなさんの活発な意見交換の場となっています。

▶当日の流れ

１．開会あいさつ
２．小梅の会紹介
３．参加団体紹介
４．フリートーク
５．閉会あいさつ

令和５年から開催し、今回で２回目。

小梅の会側が団体にやってほしいと思うことを提案するのではなく、各団体がお互いに考えて、一緒に何かを企画したいなどの要望があれば、後押ししていきます。

次年度も開催する予定です。

開催データ

▶実施日時：令和６年１０月１７日　（木）　１３：３０～１５：３０
▶実施場所：浅川市民センター
▶参加人数：２０名　参加団体数：９団体

３．資料集

はちまるサポートの相談実績や各はちまるサポートの情報についてご紹介します！

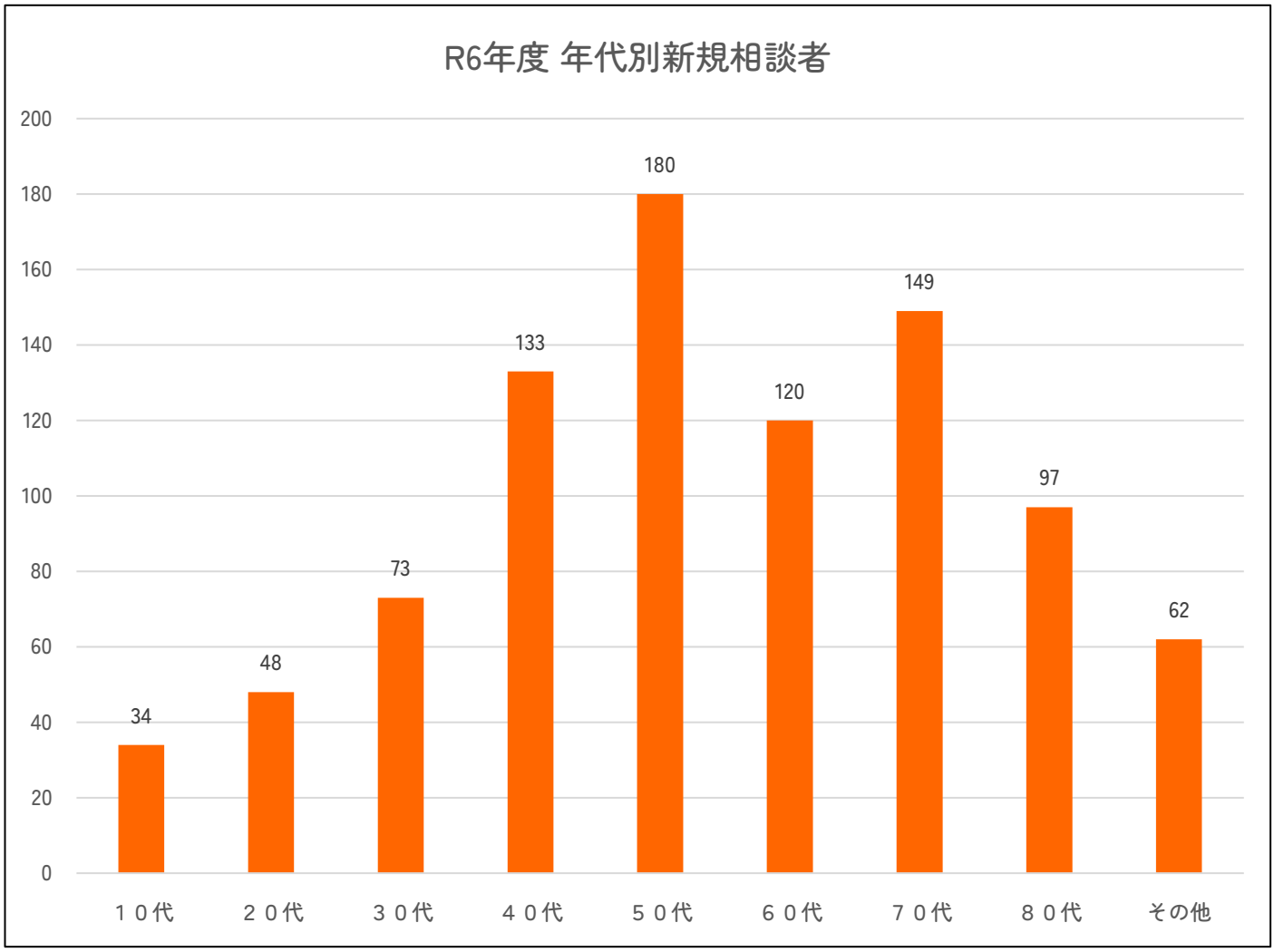
１．はちまるサポート相談実績データ

２．はちまるがあるところ

□はちまるサポート相談実績データ

（１）新規相談件数(個別) 令和６年度 896 件（前年度比 -152 件)

新規相談件数(地域) 令和６年度 93 件（前年度比 ＋ 15 件)



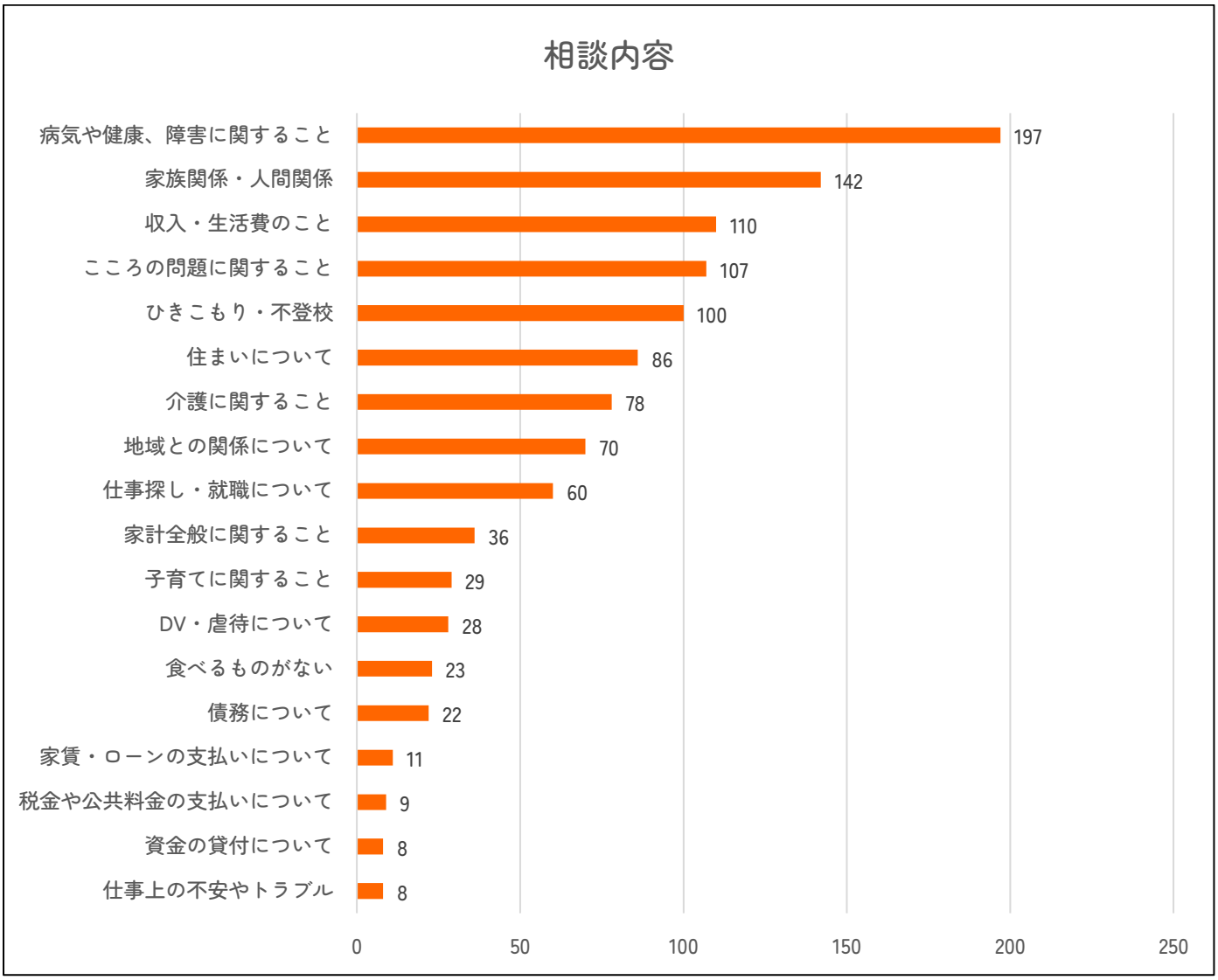
個別相談においては、年代別に比較すると例年通り５０代の方からの相談が多くなっている。

これは、１８歳までは子ども家庭センター、３９歳までは若者総合相談センター、６５歳以上は高齢者あんしん相談センターなど、年代別に相談窓口が設置されていることから、制度の狭間となっている４０～６０代の層がはちまるサポートに相談されるケースが多い為と推測される。

親世代の支援を行う高齢者あんしん相談センターやケアマネージャーより、同居する当該世代の家族について相談を受ける機会が増えており、8050 問題やひきこもりへの問題意識が高まっている様子もうかがえる。

令和６年度は新規開設拠点がなかったこともあり、前年度よりも１拠点あたりの年間個別の相談件数は１０件程度減少している。一方で、地域団体等からの相談に関しては件数が多くなっていることから、個別相談と地域の相談を一体的に行っていることが見えてくる。

(２)新規相談者件数における相談内容

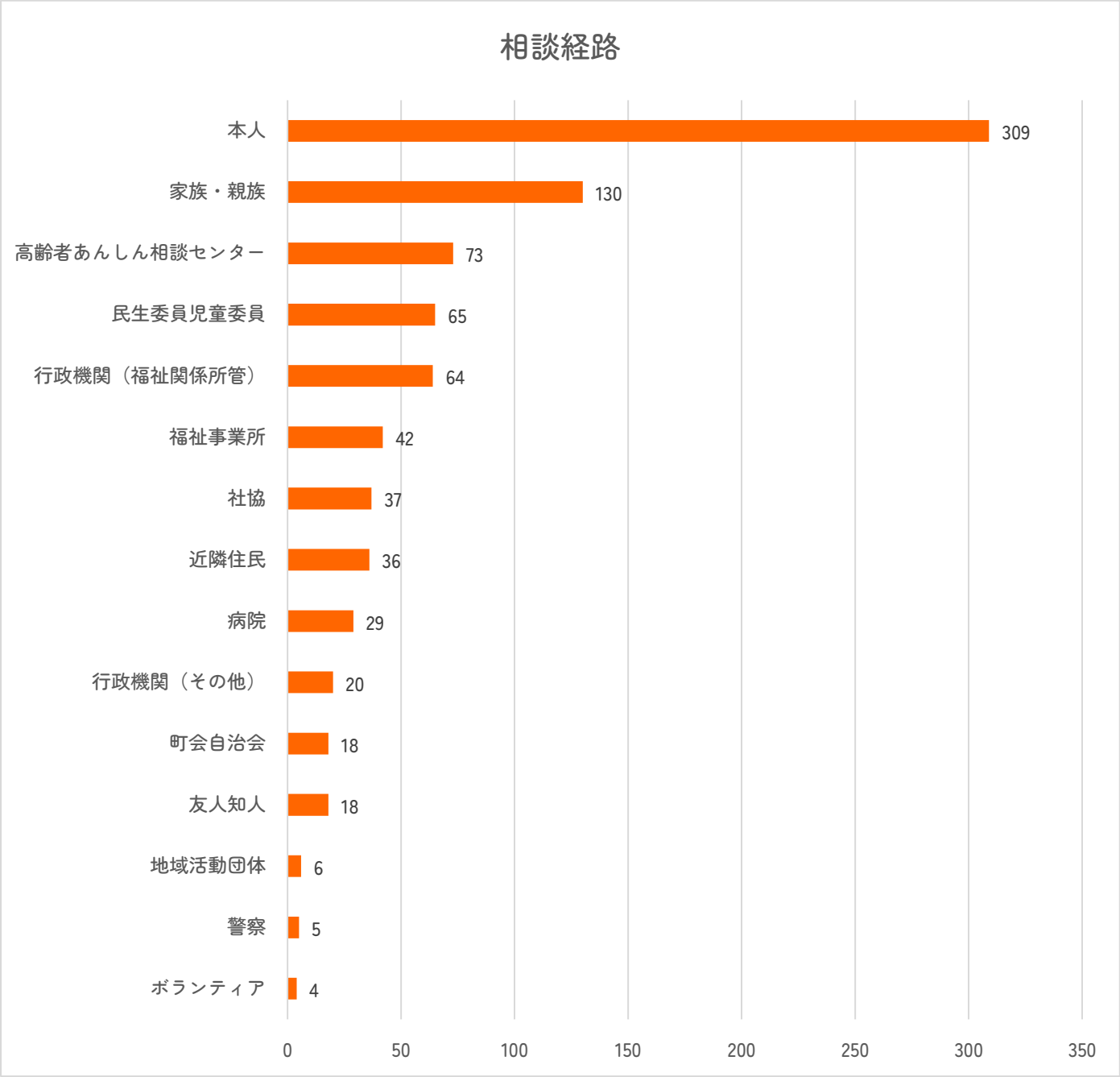


はちまるサポートへの相談は、病気や障害についての相談が近年多くなっている。

次いで多いのが家族関係や人間関係の相談になるが、１件に対して下位の相談内容等と重複した相談を受けるケースが多いので、家族間での金銭管理や、ひきこもり、介護、子育て、ＤＶなどの悩みを併せて抱えている相談が各はちまるサポートへ寄せられている。

はちまるサポートの市民への認知度が進むことで、相談先に迷うような、いわゆるグレーゾーンと呼ばれる人たちからの相談や、職場・家庭内のストレスが原因で精神的な障害を抱えている方からの相談を受けることがある。生きづらさを抱えている方が適切な制度やサービスに繋がるだけでなく、ご本人の気持ちに寄り添い、時には地域や関係機関と連携して対応をしている。

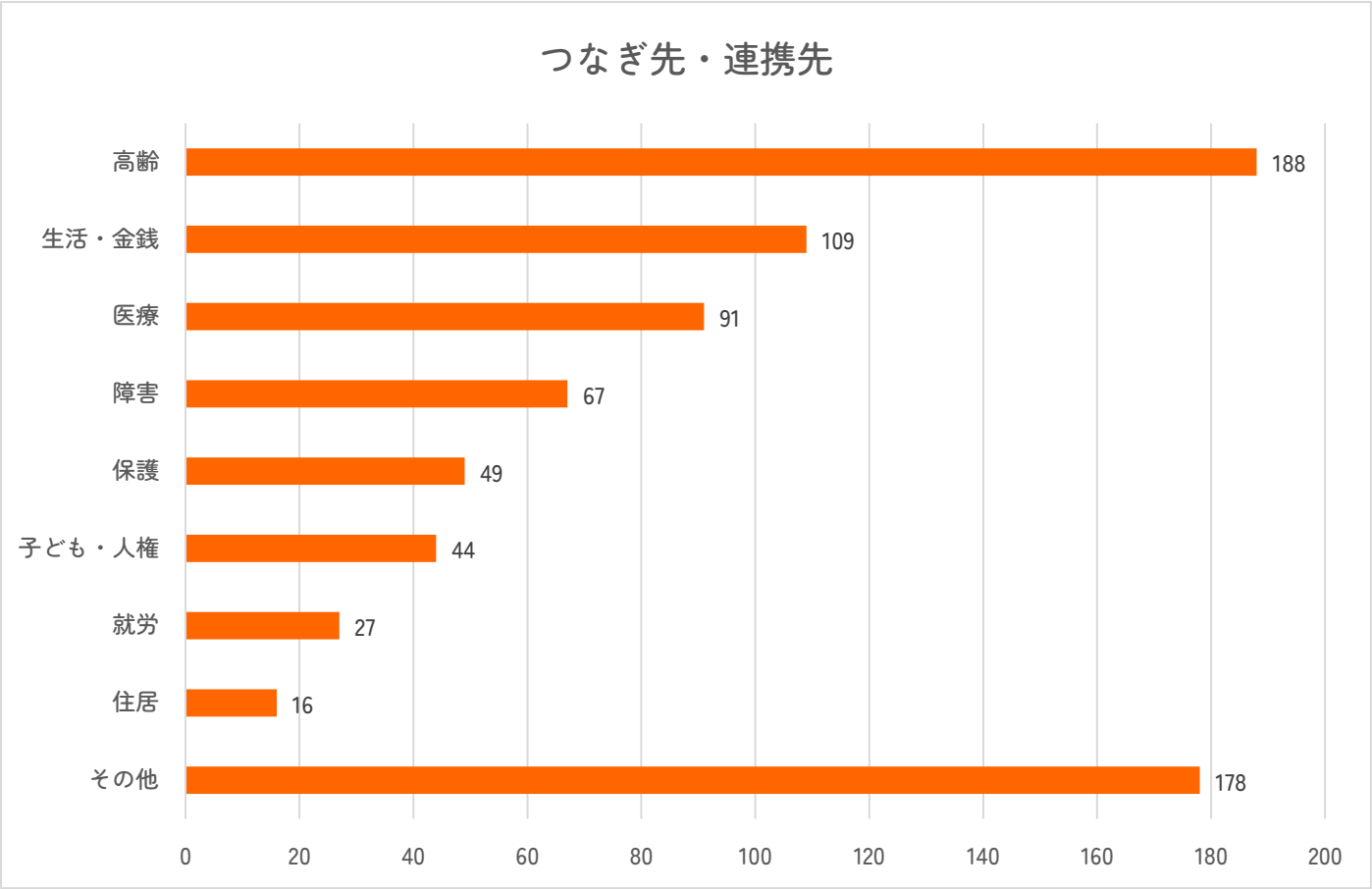
(３)新規相談者件数における相談経路



例年と比較して、ご本人からの相談が著しく増加している。これは、地域やイベント、商店等を通じた周知活動や、他職種との関わりの中で、はちまるサポートの認知度が向上していることが一つの要因だと考えられる。

次いで、ご家族からの相談が多いのは、当事者の方が直接相談出来ないケースや、当事者自身は「困り感」がないケースである。ひきこもりや障害等で当事者自身が直接相談できないケースにおいては、CSWがアウトリーチを行うことで関係性を築いてから制度やサービスへのつなぎや、社会参加支援等を行っている。

(４)新規相談者件数におけるつなぎ先・連携先



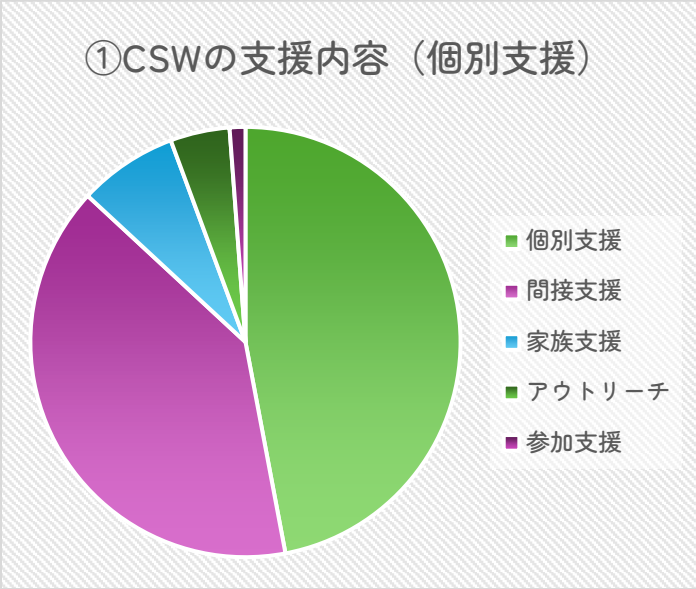
つなぎ先・連携先 の内訳

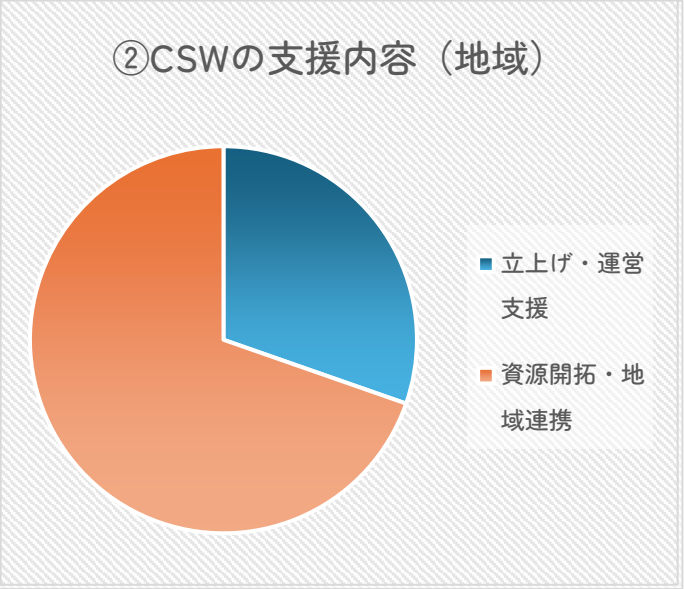
高　　齢：高齢者あんしん相談センター、高齢者福祉課、居宅介護支援事業所等
生活・金銭：自立支援課、行政の保険年金担当、フードバンク、法テラスなど
医　　療：医療機関、保健所など
障　が　い：行政の障害担当、基幹相談支援センター、障害者就労支援事業所など
保　　護：行政の生活保護担当、警察など
子ども・人権：こども家庭センター、児童相談所、行政のこども家庭担当、児童相談所など
就　　労：ハローワーク、地域若者サポートステーション、就労準備支援機関
住　　居：不動産、保証関係会社、居住支援協議会
そ　の　他：社協内の他部署、民生委員・児童委員、サロン、子ども食堂、その他行政担当部署

8050 世帯等で高齢者あんしん相談センターと連携しているケースが多いなか、物価高騰による影響や、金銭管理について課題を抱える生活困窮者も増えてきており、自立支援課との連携も増えている。障害分野の支援機関や医療機関からの相談も増加傾向にある。

また、過去と比較すると福祉分野以外からの相談も増えており、多職種で連携し多角的に世帯全体へ支援を行っていることがうかがえる。その他項目も高い数値なっているが、主に地域活動団体や民生委員との関わりが深いためである。公的資源に限らず、地域住民や地域活動団体との連携が欠かせないことも、はちまるサポートが行う支援の特徴と言える。

(５)令和６年度における新規相談ケースに対する支援内容





CSW が行う支援内容について

個　別　支　援：本人(当事者)と面談、同行訪問、傾聴、困りごとの整理など
間　接　支　援：本人(当事者)のことについて、関係機関、関係者等との相談・調整など
家　族　支　援：本人(当事者)の家族や相談者に対する面談、傾聴、困りごとの整理など
アウトリーチ：支援が届いていない人へのアプローチ、本人(当事者)との関係構築のための対応
参　加　支　援：本人(当事者)を地域につなぐ為、社会参加を目的としたアプローチ

資源開拓・地域連携：地域活動団体との関係づくり等の活動、地域団体主催イベントの手伝いなど
立上げ・運営支援：地域活動者・団体に対する支援活動全般

個別支援に関しては、本人に対する直接的な支援（個別支援）が最も多く、対象者との信頼関係の構築に重点を置いた継続的な寄り添い方の支援を行っていることがわかる。

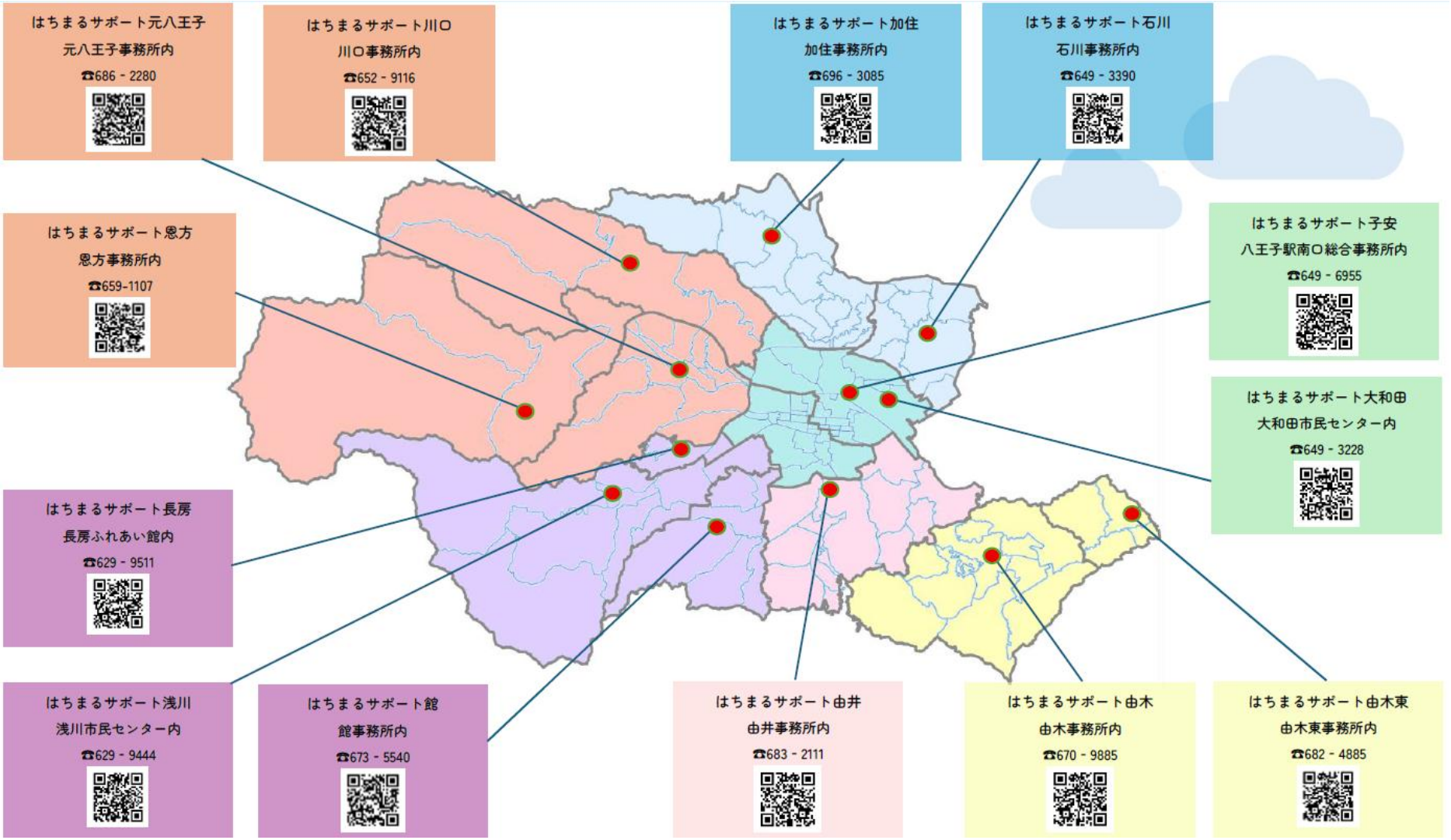
また、アウトリーチや参加支援は他項目と比較し少ないものの、地域や関係機関との調整や連携（間接支援）の数値が高い。これは、潜在的ニーズを抱えた対象者への支援方策について、多職種で検討を行い今後のアウトリーチ支援や社会参加につながるアプローチについて検討を進めているためである。

こうした潜在的ニーズや、支援が届きづらい方への支援を行うため、グラフ②にある通り、地域との連携や顔の見える関係構築に努め、個別支援に活かしている。個別支援と地域支援を一体的に行うことで、個人、地域の持つ強みを活かした地域づくりにつなげていきたい。

はちまるがあるところ＝寄り道できるところ

市内 13 か所に設置されているはちまるサポート。市役所の事務所、市民センターなど、地域の身近なところでみなさんが立ち寄りやすい場所に窓口を構えています。

お困りごとはもちろんですが、気になること、地域の情報などなど…そこに住んでいるからこその情報をぜひお寄せくださいね。各はちまるサポートでできることは同じですが、スペースや地域性により取り組み内容も異なりますので、ぜひお立ち寄りください。



令和６年度　はちまるサポート活動報告書

令和７年（２０２５年）７月

発行・編集：社会福祉法人　八王子市社会福祉協議会　支えあい推進課

電話：０４２－６４９－８４７７　メール：sasaeai@8-shakyo.or.jp